



木曽林務課だより

10月

令和5年10月12日（木）に「木曽郡植樹祭」が、上松町小川の大井野共有林を会場に、5年ぶりに開催されました。この日は素晴らしい秋晴れに恵まれ、郡内外の招待者や林業関係者の皆様と上松町小学校の「みどりの少年団」を迎え、総勢約120人の参加者により実施されました。今回はその内容をご紹介します。

木曽郡植樹祭が開催されました！

木曽地域は、その面積の93%を森林が占め、先人の努力により豊かな森林が脈々と育まれてきました。その森林を守り育て、次代に引き継ぐことが現在に生きる私たちに与えられた役目です。今回の植樹祭は、その森林整備の一層の推進と意識の高揚を図ることを目的に開催されました。式典では、来賓の方々からの祝辞に続き、上松小学校の「みどりの少年団」代表の金森君から力強い声で「みどりの宣言」を頂きました。式典終了後、来賓の方々と主催者・後援者の皆さんで、上松町の花である「オオヤマレンゲ」3本を植え、記念標柱を建立しました。その後、29年前に県植樹祭で植えたヒノキ林に入り、ツキノワグマの皮ハギ防止のためのテープ巻を行いました。



式典の様子



みどりの宣言



記念撮影



テープ巻作業

育樹（テープ巻）作業では、先ず指導者から実際の作業内容の説明と実演を行った後、それぞれ2人一組（小学生は3人一組）となって作業を行っていただきました。

初めはゆっくり丁寧に確認をしながら行っていた作業も徐々に慣れ、主催者の予定をはるかに超えた範囲の作業を行うことが出来、準備したヒノキ林の殆どが終了しました。

作業を終えた子供たちは、次代に引き繋ぐための作業がしっかりできた！という満足のいった笑顔がとても印象的でした。

今回の経験を基に、森林を守り育てる作業を今後も継続して行って欲しいと切に願っています。



作業後の林内の様子